

令和３年度長野県消費者団体との意見交換会の概要

１ 日 時： 令和３年１１月１６日（火） １３：１５～１５：１５

２ 場 所： 長野第一合同庁舎 共用会議室

３ 出席者： 〔消費者団体〕

長野県内消費者団体 役員等 １１名

〔関東農政局〕

経営・事業支援部 食品企業課

食品産業環境指導官 関口 泰雄 外１名

消費・安全部 消費生活課 課長 山下 浩一 外２名

長野県拠点 地方参事官室２名

４ 情報提供

○「健やかな食生活を考える ～食中毒の予防について～」

関東農政局 消費・安全部 消費生活課 消費者行政専門職 望月 弘樹

○「食品ロス及びリサイクルをめぐる情勢」

関東農政局 経営・事業支援部 食品企業課 食品産業環境指導官 関口 泰雄

５ 情報提供後の意見交換概要

（消費者団体）

○本日お話いただいた資料の中に、２０００年度以降の事業系食品ロス量が示されているグラフがあります。このグラフをみますと、２０１３年度までは順調に減少してきていますが、その理由についてお分かりであれば教えてください。それから、一方、２０１４年度や２０１５年度では増加に転じています。こちらの理由についてもお分かりであれば、あわせて教えてください。

（農政局）※後日回答分も含む

○２０１３年度まで順調に減少してきた理由の一つには、企業の努力により食品リサイクルが進んだということがあります。それと、２０１４年度から２０１５年度への増加理由ですが、２０１５年の食品製造業、関連流通業、外食産業の国内生産額の合計が４兆円増加（対前年比＋４．４％）しており、この経済活動の活発化も影響していると思われます。



山下消費生活課長（進行）

（消費者団体）

○本日のお話を聞いて、農林水産省が行う事業系食品ロス削減対策として、事業者の商慣習の見直しなど、数々の取り組みや働きかけをされていることがよく分かりました。ぜひ、今後も続けていただきたいと思います。食品ロスの問題は、事業者、消費者、それぞれの理解がないとなかなかうまくいくものではありませんが、私たち（消費者団体）に課せられた仕事というのは、本日聞いた農林水産省の取り組みなどをいかにして消費者に広く知らせていくかということであると思っています。本日はわかりやすい資料もいただきましたので、地域に帰りまして、自分が所属する団体、また、ほかの団体の方も誘い、そして、できれば行政とも協力しあいながら、みんなでこの問題について話し合いができればいいなと思っております。

少し話は変わりますが、生産者が作っているきゅうり、キャベツ、レタス、もやしなどの廃棄量がとても多いという話を聞いたことがあります。生産者は価格が安すぎると畑に捨ててしまうのだそうです。また、消費者も1袋にきゅうりが5本も入っていると、結局使い切れず最後は捨ててしまうという話を聞きます。いったい日本全国で何本のきゅうりが捨てられてしまうのでしょうか。生産者は精魂込めて作っているのに捨てなければならない、また、捨てられてしまうという現状、何とかならないかなと思います。それと、私の家では米を作っていますが、米の販売価格はとても安いですが、国からの交付金で何とか不足を補ってはいますが、近所でもどんどん米作りを辞めてしまっていますし、このままみんな辞めてしまっても、輸入もできなくなってしまうたらどうになってしまうのだろう、これからの子供たちはどうになってしまうのだろうと考える時があります。機会があれば、これからの農業についての話し合いもできればいいなと思いました。

話は戻ります。本日の意見交換会に参加して、私も食べられるものは無駄にせず、きちんと食べていかなければいけないと改めて考えさせていただきました。どうもありがとうございました。

（農政局）

貴重なご意見ありがとうございます。お店で手前にある商品を選ぶなど、皆さん一人ひとりの日々のちょっとした行動で食品ロス削減に貢献することはできます。本日聞いていただいたお話が、少しでも皆さんの周りで共通の認識となっていただけたらと思います。それから、米の販売価格が安いというお話がありました。農林水産省でも米消費拡大の推進について取り組んではおりますが、食の多様化もあり、消費が伸びず、需給バランスが崩れ、米の販売価格に影響が出てしまっているところです。米は唯一国内生産だけでまかなうことができますが、その米の消費が伸びない結果、食料自給率が37%（カロリーベース）まで下がってしまっ



関口食品産業環境指導官

ていますので、農林水産省では、だぶつく米に代わり、多くを輸入に頼っている麦、大豆などの穀物に転換し、食料自給率向上に向けた取り組みを行っています。なお、食料自給率に関していえば、地場産のものを食べていただけますと、その向上に繋がりますし、また、流通にかかるエネルギー消費量が削減できますので、環境負荷を低減できます。それは、持続可能な地域社会の構築に繋がることにもなりますので、そういったところも少し皆さんに意識していただければと思います。私どもとしましては、今後も生産者、事業者だけでなく、消費者の方にも農林水産省の取り組みをお知らせしていきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

（農政局）

大学教授から「学生に食品ロス問題を学ばせたい」と相談を受けたこともございますが、この問題に関心を持っている学生は結構いるようです。実際、このテーマでゼミを行っている大学があるようですし、去年は、関東農政局でも食品ロス削減に取り組んでいる大学の学生と意見交換を行いました。その際、学生から斬新なアイデアをたくさん聞くことができ、こちらも大変勉強になりました。このように、食品ロス問題については、学生も注目していますので、皆さんもそれぞれの地域の学生と学習会を計画していただけたらと思います。幅広い年齢層の方々と意見交換を行えば、食品ロスを減らす方法がたくさん見つかるのではないかと思います。それから、野菜の廃棄量が多いというお話がありましたので、食品ロスを減らすための取り組み事例の一つとして、先日、明治神宮で行われた東京都農業祭での出来事をお話いたします。従来であれば、農業祭の取り組みの一つに一般販売会が予定されているのですが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となったため、出品された農産物の多くがフードバンクに提供されました。このフードバンクとは、食品関連事業者から規格外品や余剰品などや、廃棄される前の状態である野菜などの寄付を受け、食べ物に困っている人や施設に提供するといった活動をしている団体ですので、この行動によりかなりの農産物が廃棄されずに済みました。農林水産省ではこのフードバンク団体の活動が、食品リサイクル法之最優先事項である「食品廃棄物等の発生抑制」の取り組みに加え、社会貢献に繋がる取り組みに該当するということから支援しています。そして、その活動を支援する費用を令和4年度で予算要求しています。

（消費者団体）

食べ残った食品は、冷蔵庫に入れたからと安心せず、早めに食べてくださいとお話がありましたが、冷凍庫に保管する場合は早めに食べなくても大丈夫ですか。

（農政局）

冷凍すれば、細菌の増殖は止まりますので早めに食べなくても大丈夫ですが、細菌は死滅しているわけではないので、室温に戻す場合は注意が必要です。

（消費者団体）

新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の影響で、多くの飲食店が休業しましたが、そのときの食材はどうなってしまったのでしょうか。

（農政局）

すでに小売店や飲食店へ搬入されてしまった食材についてはわかりません。ちなみに、学校も休みになった時期がありましたが、その際、食品関連事業者から学校給食用として搬入される予定であった食材の搬入先を学校休校により、やむなくフードバンクに変更したということがありました。農林水産省では、この取り組みが「食品廃棄物等の発生抑制」に該当するということで、その輸送代を支援しております。このほか、ホームページでもコロナ禍において食材が無駄にならないようフードバンクとの仲介をするなどの働きかけをしています。

（消費者団体）

多くの野菜が捨てられてしまうとお話がありましたが、この話は私もよく聞いています。先ほどのお話ですと、農林水産省はフードバンク活動を支援していくということですが、あわせて子ども食堂への支援も考えていただけたらと思います。



全体の様子

（農政局）

フードバンクとは、食品関連事業者とエンドユーザーの仲介をするボランティア団体です。一方、子ども食堂はエンドユーザーに該当します

が、現在、エンドユーザーの取り組みは農林水産省の支援対象となっておりません。しかし、フードバンクの活動には、食べ物に困っている人を助けたいという強い思いが含まれていますし、また、フードバンクと子ども食堂は強い繋がりがありますので、フードバンクを支援することによって、子ども食堂への提供も今まで以上に充実していくのではないかと考えています。ちなみに、他省では、子ども食堂に対する助成制度があるかと思っています。

（消費者団体）

よくテレビで業務用スーパーや倉庫型小売店などが特集されています。それを見ると、皆さん、一度にかなり多くの食材を買われているように思います。冷凍保存という方法も考えられますが、そうは言っても本当に最後まで食べきれののかな、食品ロスの問題を考えるとどうなのだろうと思うことがあります。

（農政局）

この件に関しましては、各ご家庭の経済的事柄などもあると思いますので何とも言えませんが、「食べきれなかったけど、安かったからまあいいか」という考え方では購入してほしくはありません。きちんと食べきれ分だけを購入していただきたいと思います。

（消費者団体）

スーパー等にはブランドの果物も売られています。しかし、そういった果物は、その見切り品であっても高価なためか売れ残っているのをよく見ますが、最後は廃棄されてしまうのでしょうか。

（農政局）

食品スーパーの仕入れ担当の方と話をする機会があります。その際、食品ロスの話にもなりますが、各スーパーとも、見切り品のように安くしてでも品物を売り切り、その結果、食品ロスも削減したいと努力されています。ブランドの果物については、見切り品であっても高価というお話しですが、スーパー側の販売戦略も考えると、売り切ることを考えて値引きをしすぎてしまうと、逆にとことん値引きするまで購入を待たれてしまうなど非常に難しい部分もあると思います。売れ残ってしまった高価な果物がどうなるのかについては私も気になるころではあります。

（消費者団体）

長野県佐久市でお米を作っている生産者から、国内では米が余っており、転作でほかの作物を作るようになるというお話を聞きました。五郎兵衛米（佐久市の一部地域で生産される米の名称）など美味しいお米が穫れるところなのに、畑になってしまうのは残念だと思いました。このことについては何か政策のようなものとの関係があるのでしょうか。

（農政局）

農政局（地方参事官室）では、生産者の方々に農林水産省の施策などを案内しております。おっしゃるとおり、米の消費は年々減少しており、大幅に余っています。そのため、大切な農地を守りながら食料自給率を上げていく政策として、需要があるのに大部分を輸入に頼っている麦・大豆・カット野菜向けの野菜への転作が必要という案内をしておりますが、決して強制ということではありません。販売先が確保できている米であれば、生産者の経営判断のもと米を作っていただければと考えております。それから、先ほど高級（ブランド）果物のお話がありましたが、長野県産ですと高級な果物の一つにぶどうがあります。高級ぶどうは、香港、台湾などの富裕層に大変人気があり、輸出拡大につながっています。食品ロスの観点からすると、国内で高価な果物が捨てられてしまうのではないかとご心配の声もあるかもしれませんが、農産物を高い価格で販売できることにより、生産者の所得向上と、若

い方が農業に魅力を感じることで、後継者の育成につながるという大きなメリットがあります。

（消費者団体）

長野県内でも、戦後苦労して開いた田んぼや畑がありますが、世代が変わって捨てられたり、荒廃してしまっているところがたくさんあると聞いています。さらに、この先、生産者の高齢化が進んでいきますが、現在、近くには畜産を学べる学校が無くなってしまっているとも聞いていますので、将来がとても心配です。長野県は農業県であると思っていますが、レタスやキャベツの値段が安すぎるから畑に捨てるとか、それを欲しい人は勝手にどうぞというような話は聞きたくありませんので、ぜひ、地域が活性できるような策を講じていただけますようお願いいたします。

（農政局）

生産者の高齢化に伴って、耕作放棄地が増えてしまっているというのは、長野県だけでなく日本全国各地で課題となっています。そこで、農林水産省としても農地を有効に活用できるような取り組みは行っておりますが、これからも取り組んでまいります。



全体の様子

（農政局）

本日は、食品ロスについて話を聞いていただきましたが、皆さんには、ぜひ、食品ロス削減という言葉が普段の生活の中に浸透させていただきたいと思っています。例えば、お友達と会ったときに食品ロスのことも話題に加えていただければと思います。それだけで意識は確実に変わっていくと思います。別に答えはでなくてもいいのです。その過程が大事であると思っていますので、よろしくお願いいたします。貴重なご意見をたくさんいただきましてありがとうございました。